

# 悲観論でなく「イノベーション」の視点

参与

工博・土木学会フェロー・日本コンクリート工学会フェロー  
技術士(総合技術監理部門・建設部門)

筑波大学非常勤講師  
東京電機大学客員教授

牛島 栄

# 悲観論の根拠 「人口減少」

2014年1月に公表された新しい将来推計人口によると  
我が国の人口は2010年～2060年の今後の50年間で  
1億2806万人から8674万人にまで減少する  
これは現在のドイツの人口よりやや多いくらいの水準である

多くの人がつイメージ

- ・人口が減っていくのだから、経済成長などできるはずがない
- ・せいぜいよいところでゼロ成長だろう

悲観論の根拠の代表格は、  
わが国の「人口減少」である

# 経済性成長と人口の相関関係

しかし、過去100年間のデータが明らかにするように、先進国の経済性成長と人口の間には短期的・長期的にもまったく相関関係はない

一般に先進国の経済の成長率は、人口増加率よりもはるかに高く  
その結果、1人当たりの所得水準が上昇してきた

それこそが今日の先進国を「先進国」たらしめたものである

移民の流入の多いカタールやシンガポールといった国を除くと人口増加率が2~3%という高い数値を示す国々の大半は、アフリカ諸国である

欧州連合(EU)経済の機関車であるドイツの人口減少は、マイナス0.09%(05~10年平均)と日本の人口減少を上回る

# 社会の「イノベーション」

人口が「右肩下がり」の経済でのビジネスは厳しいと嘆く経営者も多い  
しかし、減少する人口を嘆いているのは単に自国の人口にすぎない

グローバル経済の「視点」から世界全体を見渡せば、  
経済発展のフロンティアはいくらでも存在する

そもそも、数に頼るモノやサービスは「コモディティー化」しやすく  
付加価値は低くなりがちである

人口減少や高齢化により社会が大きく変わるときには  
潜在的なニーズも変わる

それこそが、社会の「イノベーション」の源である

日本経済の閉塞感の元凶は人口減少ではなく、イノベーションの不足ではないのか

# オフシェアリング

では、イノベーションに成功しているグローバル企業は  
なぜ高いパフォーマンスを維持できるのか



対外投資や製造工程の一部を海外に移転する  
オフシェアリングを通じ、国際化を深度化していることに依る

## オフシェアリング

輸出から現地生産への切り替えによる輸送費用や関税の回避、  
また、労働コストが安価な国への組み立て工程の移転による製造  
コスト削減の手段とみなされる

比較的に単純な組み立て工程を海外に移転すれば、日本では  
新製品開発や高品質部材の生産といった技術や知識の集約的な  
工程に特化することができる

# グローバル競争に勝ち抜くには

グローバル競争に勝ち抜くため、世界的にみて革新性の高い新技術や新製品を常に関発していく必要があるが、こうした高度なイノベーションを国内拠点のみで行うのは現実的ではない

世界各地の知識の集約で生み出されるアイデアを  
現地法人が吸い上げ、本社の研究開発に還元する  
グローバル・イノベーション体制を確立することが  
日本企業が世界の技術フロンティアに位置する上で重要である

# 企業の海外進出

成長著しい新興国市場への進出は、現地市場のニーズや規格を反映した製品開発が必要である

現地法人は本社から移転された技術を基に  
現地市場の実態に合った製品を開発する役割を担えば良い

現地法人の研究開発と日本の本社からの技術移転が  
現地法人の生産性向上を補完的に寄与する

企業の海外進出は  
国際的な認知度やブランド力を高める意義もある

環太平洋経済連携協定(TPP)

国際化の初期段階にある中堅・中小企業がグローバル企業に発展する  
好機と捉えるべきであろう